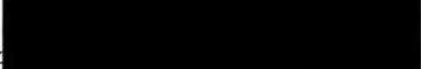


岡山市区づくり推進事業報告書
(地域活動部門)

平成 29年 4月 19日

岡山市長 大森 雅夫 様

フリガナ ツクリヤマコフンソセイカイ
団体名 造山古墳蘇生会
所在地 
連絡先 
フリガナ
代表者氏名 

実施分野	(該当の分野を○で囲んでください) ☒ ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名	造山古墳を活かしたふるさとづくり
事業実施区域 (小学校区)	造山古墳とその周辺(加茂学区)
事業 実 施 内 容	①ボランティアガイドの自主勉強会・研修会・講演会等の開催 *添付資料: 県外視察研修の写真 ②地域イベントに参加 ③校外学習のガイド協力(一般見学者にも予約制で対応、日曜・祝祭日は待受け) *添付資料: 平成28年度ガイドスケジュール表・校外学習の写真 ④ガイドマップ・案内パンフレット等の製作と提供 ⑤古墳及び周辺の清掃活動 *添付資料: 清掃活動後の写真 ⑥フォトコンテストの募集・審査・展示まで(造山古墳とその周辺の四季) *添付資料: 審査・展示の写真 ⑦高松中学校「高松歴史教室」開講に協力 *添付資料: 授業風景写真 ⑧「第3回造山古墳まつり」開催に向けた企画・実行委員会の実施

事業 目 的 と そ の 達 成 状 況 と 効 果	①「造山古墳」を世に広め、見学者を増やし、学区の知名度を高め、話題豊富で活力ある地域を作る。 ②価値ある「造山古墳」に対する地域の認識を深めさせ、学区のシンボルにする。 種々の活動が岡山市の広報紙や地元紙へ取上げられ、また、全国自治会連合会全国大会や岡山市町内会長等懇談会等の場で事例発表する機会を得た。全国及び岡山市全域に向け「造山古墳」の存在とその活動を知ってもらえる事ができた。それらが会報や学区のホームページに載り、地域の人々の話題になるところとなった。 1年を掛け、造山古墳とその周辺のフォトコンテストを実施した。「第3回造山古墳まつり」への布石として話題を提供した。応募件数は一般 157件、小・中学生60件と当初の不安を一掃の応募数であった。高松公民館に1ヶ月を超え素晴らしい展示ができた。 また、長年の夢であったワクワク感を感じてもらえるよう、当地でしか手に入らないものの商品を作った。 千足古墳の直弧文をデザイン化し、商標登録をした「ちょっこもんチョコ」及び地元加茂小の当時4年生だった児童が作ったキャラクターを焼き印に「ちょっこもん煎餅」を商品化し、地域の話は増幅した。 ③次代を担う子どもたちの地域学習に協力し、誇りや自慢を植え付け、健全育成に繋げる。 ④「造山古墳」を通じて地域の人々に「ふるさと」を感じさせ、郷土に対する愛着心を醸成させる。 28年度も大勢の見学児童を案内出来た。頂いたお礼状からは誇りや自慢の感想がうかがえた。加茂小では児童が造山古墳を撮影し、俳句を作り掲示、優秀作品は高松公民館に展示し、多くの来館者の目に触れることとなった。ふるさとを再認識したと思う。 また、高松中学校は、予てから体育会系以外に文系向きの生徒の部活受け皿に地域協働学校開始及びユネスコスクールに照らし、歴史と文化の高松を勉強するサークル育成の検討依頼をしていたが、平成28年8月1日、第1回「高松歴史教室」―高松地域に学ぶ―の開講に結び付いた。 以上の様な事柄から、今までに無く充実した1年であったと考える。
企 画 な ど の 工 夫 と 情 報 公 開	考古学者の講演会を主に開催して来たが、縁あって北大 教授に歴史文化論講座として「外国から見た我が郷土たかまつ」と題した講演をして頂いた。30数年前この地に約1年滞在し、調査研究したコミュニティの姿が話され、現在との比較から「ふるさと」「郷土愛」が再認識されたように思う。 1年を掛けたフォトコンテストの審査は3次まで行ったが、特に、2次審査では公民館来館者も参加できる投票にした。造山古墳及び蘇生会の活動をいっそう印象付けることにつながった。応募数が予想以上に多かった事から当初無かった「入選」も作り、古墳まつり後、該当者に賞状を渡す手はずとした。優秀作品は将来絵葉書や冊子に利用する予定である。 この地にふさわしいオリジナル商品として「ちょっこもんチョコ」を作る事を決め、先ず商標登録を申請し、取得した。次に日持ちする煎餅をPL法の心配をせずに済む委託生産に決めた。山陽新聞やon i ビジョンで取上げられ、また、学区のホームページにも公開した。

次年度計画	少子高齢化が一層進んでいる事を考えれば、次年度以降も話題豊富で活力ある地域作りにどう取り組むかは必須の事。その認識に立った上で、この地にワクワク感を感じさせるパワーのある蘇生会の活動でなければならないと考える。 先ずフォトコンテストの優秀作品活用を具体化させる。 知名度が上がれば上がるほど期待値が高まる。ボランティアガイドの人材発掘や補強・補充をどの様にするかは継続的な課題である。 蘇生会組織の刷新も必要である。(役員の若返り化) 初めてこの地に多額の予算がついた千足古墳整備事業の竣工に際した記念行事の検討予定等。
事業実施者としての評価・感想など	設立8年経過したことから持続可能な地域づくりが出来てきたと考えるが、平成21年、産声を上げたばかりの団体が精一杯背伸びして地域で認めてもらおうと努力してきた活動は即ち「動」。いつかは同じような、パターン化した活動内容に落ち着いていく、即ち「静」＝マンネリ化の評 このような循環に苛まれることが多々ある。 そして、何よりも軍資金に頭を悩ます。 今開催の「第3回造山古墳まつり」の資金調達に関し、学区の全町内会、各団体がそれぞれ開く3月の総会で協賛可否の協議をお願いした。初めて投げかけた。協賛は、あくまでも自主的で、強制するものではない旨を明確に申し上げた。 この結果により、客観的に事業実施者と蘇生会の活動評価を下してもらえるものと判断する。ここでは、独善的に陥りやすい事業実施者として評価は差し控えたい。

■事業実施にあたっての協働の状況

[illegible]

■収 支 決 算 書

◆収 入

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
岡山市補助金	250,000	250,000	
負担金	50,000	82,108	
参加費			
協賛金	180,000	200,000	
寄付、他収入	20,000	20,000	
計	500,000	552,108	

◆支 出

単位:円

項 目	予 算 額	決 算 額	内 容 (必ず記載してください)
消耗品費	38,000	50,707	インク・用紙・文房具
食糧費	30,000	38,431	会議お茶等
印刷製本費	175,000	162,636	パンフ・ポスター・チラシ等
通信運搬費	90,000	62,042	郵送料・電話代等
手数料		44,037	振込手数料他
使用料		12,805	借室料
原材料費		40,870	菓子原料・布地等
委託料		41,580	菓子型・埴輪製作費等
報償費	110,000	75,000	講師謝礼
旅費交通費	30,000	0	
広告料	2,000	0	
保険料	25,000	24,000	ガイド傷害保険
計	500,000	552,108	



■事業実施経過

年 月 日	内 容
28 年 4 月 2 日	ガイド現地研修(造山古墳周辺)
4 月 24 日	造山古墳草刈り
4 月 26 日	大元小 171 名案内 今季の校外学習スタート
5 月 16 日	高知県南国市立後免野田小 20 名 修学旅行で見学
5 月 21 日	造山古墳蘇生会総会
5 月 24 日	加茂小 41 名地域学習で案内 写真撮影し俳句を作る
5 月 28 日	造山古墳草刈り
6 月 13 日	専用携帯電話契約見直し 料金低減化
7 月 5 日	ガイド研修会(総社市学習の館)
7 月 9 日	第 1 回「造山古墳まつり」実行委員会(高松公民館)
8 月 1 日	高松中学校「高松歴史教室」—高松地域に学ぶ—開講参加
8 月 27 日	第 2 回「造山古墳まつり」実行委員会とガイド反省会(高松公民館)
8 月 28 日	「外国から見た我が郷土たかまつ」北大教授 [REDACTED] 講演
9 月 24 日	第 3 回「造山古墳まつり」実行委員会(高松公民館)
11 月 3 日	丹後の古墳視察研修ツアー
11 月 19 日	第 4 回「造山古墳まつり」実行委員会(高松公民館)
12 月 8 日	高松中学校「高松歴史教室」参加
29 年 1 月 12 日	高松公民館とフォトコンテストの進行協議
1 月 28 日	第 5 回「造山古墳まつり」実行委員会(高松公民館)
2 月 4 日	ガイド養成講座 講師:くらしき作陽大准教授 [REDACTED]
2 月 15 日	「造山古墳クリーン作戦」加茂小6年・保護者・環境衛生委員等 57 名
2 月 18 日	ガイド養成講座 講師:徳島文理大教授 [REDACTED]
2 月 20 日	フォトコンテスト 1 次審査
2 月 21 日	JR備中高松駅の駅舎内外に初めて古墳まつりポスター掲示を許可
2 月 25 日	第 6 回「造山古墳まつり」実行委員会(高松公民館)
3 月 4 日	第 7 回「造山古墳まつり」実行委員会(造山公会堂)
3 月 18 日	ガイド養成講座 講師:岡山大教授 [REDACTED]
3 月 25 日	ガイド養成講座 講師:岡山大教授 [REDACTED]
3 月 27 日	フォトコンテスト最終審査実施 受賞者決定